

## イネ grassy stunt 病 の 品 種 反 応

岩崎真人・中野正明・新海 昭

(九州農業試験場)

1978年福岡・鹿児島両県下においてイネ grassy stunt 病の発生が確認されたので、九州における水稻主要品種の病徴を明らかにするために本病を虫媒接種し、病徴の観察を行った。

## 1. 方 法

25品種(第1表)の苗をポット(磁製, 14.7cm)に2株ずつ移植し、温室内に栽培して接種に供した。接種源には発病した台中在来1号株を用い、トピイロウカ2~4令虫に4~6日間獲得吸汁させ、以後同虫を7日以上健全苗で飼育してから接種吸汁を行った。接種吸汁はポットあたり25頭を用い、1日間である。接種は5.1~6.7葉期のイネには3月12~17日(1979), 9.0~10.5葉期のイネには4月11~14日(1979)に行い、各品種2ポットを用いた。なお、幼苗(1.0~2.0葉期)接種はさらに8品種加えて2~3月(1979)に行った。

## 2. 結 果

5, 6葉期および9, 10葉期の2時期に行った接種イネ各品種について、登熟期まで観察した結果からその病徴の違いによって3品種群に類別できた(第1表)。1)レイホウの病徴:接種後およそ2~4葉の抽出時の新葉と次葉にネクロシスを生じ巻葉し、その後の出葉はほとんどなく、早期に枯死した。2)日本晴群の病徴:ネクロシスは4~6葉後に現れた。その部位は接種時の頂葉から2葉上位の葉を中心に2~3枚であり、それらの葉身は傾垂した。その後、黄化(黄萎病より軽い)・萎縮・叢生状態を示した。出穂前後より黄化および下葉の枯れ上りがはげしくなり、登熟期には枯死または枯死に近い状態になった。3)あそみのり群の病徴:初期病徴は日本晴群とほぼ同じであるが、ネクロシスの程度がやや

軽かった。登熟期にも黄化および下葉の枯れ上りが少なく、分けつの増加が著しかった。なお、越路早生など3品種の病徴はレイホウと異なるが、変動があるので検討中である。

幼苗接種の結果からは、金南風、センダイ、農林22号、ベニセンゴク、双葉、ホウヨク、全勝26号、綾錦の8品種の病徴はレイホウとは異なった。レイホウの系譜はホウヨク(十石×全勝26号)×綾錦(双葉×農林22号)であるが、レイホウだけにみられた早期に枯死する病徴は系譜的には不明である。なお、供試した33品種のなかで本病に強度の抵抗性を示すものはなかった。

25品種の全てに共通した病徴として、穂の褐変が認められた。この褐変は籾、枝梗、穂軸には比較的顕著であるが、稈にも現れ、またしばしば止葉葉鞘さらに葉身に及ぶことがあった。籾の場合は全体が褐変するが、特に先端部ではげしいことが多かった。穂首の抽出は一般に悪く、出すくみ状態となった。本病による褐変穂については Rivera, C. T. ら(1966)の報告もあるが、これは本病の特徴的な病徴であり、診断の指標になるものと認められる。

第1表 品 種 反 応 の 類 別

(ネクロシスを新葉に生じ早期に枯死する)	レイホウ
日本晴群 (登熟期に黄化・下葉の枯れ上りがはげしい)	日本晴, ミズホ, コシヒカリ, クジユウ, ミナミニシキ, コガネマサリ, 黄金錦, フクマサリ, シンレイ, トヨニシキ, 北陸96号, 十石
あそみのり群 (登熟期に黄化・下葉の枯れ上りがはげしくない)	あそみのり, トヨクマ, ツクシバレ, ニシミノリ, ヒヨクモチ, アカネモチ, 農林18号, I R 8, 台中在来1号
検 討 中	越路早生, ニシホマレ, 西海151号